



子ども大学かわごえ

CUK だより

第9号 NO.1004

2010年4月28日

教育—この言葉は今日何もよいひびきをもたない・・・ほんらい、
楽しみや喜び、興味、誘惑、好奇心、深く考える喜びなどといっ
たものに結びつくものだ

ミュンヘン

教育活動協会

CUK学園祭

“こどもがつくるまち「ミニかわごえ」”

平成22年3月13日・14日

開会初日

13日(土)快晴の下で午前10時に会場蓮馨寺のメイン通路でテープカットが行われました。子ども市長小俣諒介君(おまたりょうすけ子ども大学かわごえ5年)、「ミニかわごえ」実行委員長遠藤克弥氏(えんどうかつや子ども大学かわごえ学長)、同副実行委員長糸原恒久氏(くめはらつねひさ蓮馨寺住職)ら三人が「ミニかわごえ」開会を宣言。



テープカットが終わると、小学生たちは会場の入口近くに設けられた市民登録所で、入場料500円を払い、市民・仕事カードを受け取りました。市民登録が終わった子どもたちは職業紹介所へ詰めかけて、それぞれ自分の好きな職業を選んで働きに行きました。

会場には市民登録所や職業紹介所の他に、銀行、税務署、放送局、新聞社、学校などの公共の施設の他に、看板工房や飛行機製造会社など働く場所やカレー屋などの食べもの屋、丸太切りなどの遊び場など70以上のお店がありました。



埼玉県立川越工業高校が5つの学科全部で一つずつテントを出し、清水雅己教頭先生以下10人の先生と28人の生徒が参加して会場を盛り上げました。

11時半ごろ、上田清司埼玉県知事一行が到着し、会場を見学したり、子どもたちと一緒に仕事をしま

した。お昼前に、川合善明川越市長が来られ、上田知事と合流されました。

蓮馨寺を入ると左側は「おとなのまち」で、奥の講堂は子ども大学かわごえ付属おとな大学です。午後1時から1時間目の授業が始まり、

(財)埼玉りそな産業協力財団 研究主幹 樋口広治氏による「最近の景気動向について」、2時間目に、さいたま地方検察庁広報官 島田晃宏氏による「裁判員制度の現状」で熱のこもった授業が行われました。



開会2日目

14日は10時に城西川越中学校生徒の和太鼓「櫂（けやき）」演奏で「ミニかわごえ」を開幕。前日の卒業式のため参加できなかった城西川越高校・中学校生徒と教師38名が神津和明先生の引率の下に参加、また市立高階中学校生徒52人と教師9人を高桑昌作校長先生と高橋由香里先生が率いて参加、「よさこい鳴る子おどり」を数回にわたって披露（ひろう）してくれました。この日は城西川越中の和太鼓「櫂」と高階中の「よさこい鳴る子おどり」が交互に出演して、生徒たちの澁刺（はつらつ）とした演技で観客を魅了（みりょう）しました。

中学生たちの参加とNHKの報道などにより大勢の子どもや大人が訪れたため、会場は前日以上に活況（かつきょう）を呈しました。職業紹介所にはしばしば行列ができ、午後に入ると焼きそばなどの食べものが売れつくして品切れが生じました。



おとな大学では、1時間目に早稲田大学大学院商学研究科准教授の池上重輔氏が「グローバルビジネスは企業だけのものじゃない：弁当箱と 아이폰」、2時間目に東洋大学理工学部 教授望月修氏が「バイオ・ナノサイエンス：虫の根性を見る！」という興味深い授業が行われました。

両日の来場者数

(1)小学生(市民登録者)	596名	2日間で延べ人数700人以上
(2)中学生	52人(高階中学校)	14日のみ
	38人(城西川越中学校)	14日のみ
(3)高校生	78人(川越工業高校)	2日間
	数人(その他の高校)	
(4)大人サポーター	150人以上	2日間
	(東洋大学生7人を含む)	
(5)その他の大人来場者	約1000人	2日間
(6)参加(来場)総人数	約2000人	2日間

こどもがつくるまちの特長

「ミニかわごえ」はドイツの「ミニミュンヘン」こどものまちの理念と基本方針に沿って構成されています。「ミニかわごえ」はまた主催者子ども大学かわごえの「生き方学」キャリア教育の実践版（じっせんぱん）としてもいちづけられています。子どもたち（小中高生）は自分たちが主役となって、川越市のミニチュア版のまちづくりをし、店舗を運営し、職業・市民活動の疑似体験（ぎじたいけん）をします。

こどものまちのルール

- ・市民登録所で500円を払うと、「ミニかわごえ」市民として市民・仕事カードを受け取ります。
- ・次に職業紹介所へ行って自分の好きな仕事（例えば風車製作）を選び、働きます。そして働いた時間を工場長に証明（仕事カードに書いて）もらいます。
- ・仕事カードを銀行に提出して、地域通貨こえどをもらいます。例えば、1時間の労働に対して10 こえど、30分の労働に対して5 こえどをもらいます。
- ・隣の税務署で20%の所得税を払います。10 こえどの所得に対して2 こえど、5 こえどに対して1 こえどを払います。
- ・税金を払った後のおカネは食べものやゲームに自由に使います。
- ・おカネがなくなったらそのまま帰ってもよいのですが、大抵の子どもはなんどもこの生産と消費の活動を繰り返します。



こどものまちの施設

<< 学校・公共施設 >>

経済教室、絵画教室、よさこい教室、市役所未来教室、新聞社、放送局、電話局

<< 製造施設 >>

飛行機製作所、風車製作所、看板工房、丸太切り作業所、パッケージ製作、七宝焼き、環境測定、コースター作り、プランター作り、金属模型分解・組み立て、文鎮作り、工房（スイーツデコ、リサイクルエコバッグ、アクリルたわし、入浴剤、ビーズ、手芸）、ファンシーショップなど生産施設



<< 食べもの関係 >>

プレープ、ポップコーン、うどん、カレー、アメリカンドッグ、うどん・そば、フライドポテト、フランクフルト、ラーメン、焼きそば、味噌おでん、きのこ汁、わたあめ、カフェ、駄菓子

<< ゲーム関係 >>

ストラックアウト、割りばし鉄砲、ピンポンキャッチャー、さかな釣り、宝くじ、ロープワークなど

参加者の感想

2日間にわたって大勢の子どもたちが「ミニかわごえ」に参加しました。子どもたちは楽しんだのでしょうか、このイベントを通して何か学ぶことができたのでしょうか？何人かの子どもたちや中高生の意見を聞いてみました。

感想（小学生）

- ・店長を任せてもらってうれしかった
- ・丸太切りがたのしかった
- ・スイーツデコができなくてざんねん
- ・食べものを売る人が少なくてたいへんだった
- ・仕事をしたい人が列をつかってならんでいた（職業紹介所）
- ・料理の味がおいしかった（とくにやきそば）
- ・働いた後のご飯はおいしい
- ・仕事は楽しい
- ・お父さんは大変だとわかった
- ・みんなと協力しないと仕事ができないとわかった
- ・「ミニかわごえ」は楽しかったです
- ・本当の社会へ出たような気がした



感想（中学生）

- ・「ミニかわごえ」は職業やゲームがすごくリアルで本当の町のように感じました。参加した子どもたちの目が輝いていていききしてました
- ・子どもたちがグループでお店を出し、自分で働きながらお金をかせいでいくので将来のために役立つなと思いました。
- ・私自身も今回の小学生を見習い、与えられる指示を待つだけでなく、自分から進んで働くことを学びました。貴重な経験ありがとうございました。

感想（高校生）

- ・いろいろな店があり、充実していた
- ・仕事をしてお金をもらって何かを買うという社会の在り方を表わしていて、とてもよい催しだ
- ・小学生が真剣に社会を学ぼうとしている姿勢がすごくよかった
- ・今の小学生は手先の器用な子がたくさんいて、七宝焼きがみんなうまくできた
- ・小学生は素直でいい子たちだなと思った
- ・生徒会の一員として活動したが、とても楽しく、やりがいがあった。次回も参加してみたい



感想（「ミニかわごえ」実行委員一同）

今回は初めての催しで不十分なことも多かったが、好天に恵まれ、子どもたちに喜んでもらうことができたのが最大の収穫だった。第2回「ミニかわごえ」は今回の経験を生かして皆さんの協力のもとにもう一段進化した催しとしたい。

子ども大学かわごえ

学長 遠藤 克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ

〒350-1109 川越市霞ヶ関北 3-12-6

霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991（事務局直通）

FAX 049-233-1640F

E_MAIL info@cuk.or.jp